

佳作

私の叶えた夢

福井県 福井県立福井商業高等学校一年 樋口 陽菜

私には、長い間掲げてきた夢があった。それは、世界大会に行き優勝するという大きな夢だ。四才の頃から習い事でチアダンスをしており、小学四年生の時から、憧れていた選抜チームに入り活動していた。小学生の時は、日本一になることを目指しており、小四の頃仲間のおかげで、日本一になるという目標を叶えられた。その年の先輩方である中学生チームが世界大会へ行った。世界大会はアメリカで行われ、行くには、数少ない日本代表の枠に選ばなければならない。そこに選ばれたのだ。すごくかっこよくて、尊敬した。その時に先輩方は、世界大会で二位をとられた。すごく簡単な事ではないため、結果を知った瞬間私までも嬉しかった。また、私に世界大会へ行きたいという夢ができた。

世界大会へ行きたいという夢はできたものの、中学生からしか行けない。そのため、中学生になるまでの間、自分の技術を高めてきた。小学六年生の時はキャプテンになったため、みんなをまとめるのに必死だった。入賞

するのが難しい部門に出場したが、見事に五位入賞することができ、キャプテンで大変なこともあったけど、目標にしていた全国大会入賞を叶えられ、コロナウイルスによって制限されたけど、負けずラストまでやり切れて良かったと思えた。そして私は念願の中学生になった。中学生になって、アメリカへ行った先輩方のいらっしやったチームに入ることができた。やったことのないテクニクにも挑戦し、体も痛くなりながら頑張った。でも結果は思うようにいかず、全国大会で入賞することはできなかった。現実には厳しいなと体感し、中学二年も同じチームで挑戦しようと決めた。もう一つ上のチームになると他のチームが上手で世界大会へ行く可能性が低くなるためこのままのチームでやりたいと思った。二年生になりレベルチェックがあった。結果によってチームは決まる。先生から伝えていただいたチームは、もう一つ上の世界大会に行くのが難しいチームに選ばれた。正直もう一つ下のチームでやろうと思っていたため、予想外だったが、大先輩の方々と同じチームになれるということで楽しみだった。

私が中学二年になった時のチームは、一人一人の意識が高く、夢だった世界大会に行くことが目標へ変わった。先生の作ってくださるダンスのレベルも高くて、毎日自主練は絶対、レッスンは全力で、テストがあっても練習と、体に限界が来ていた。夏休みは毎日レッスンが

あり、楽しさと疲労が交互に来ていた。夏の西日本大会で緊張しまくり、壊れそうだったが、演技が始まれば、楽しさと感動で心が満ちた。結果は一位を取ることが出来、世界大会に行くとは別の全国大会優勝という目標の一手目をなしとげた。メンバー内で仲間割れなどのトラブルもあったが、乗り越えた。月日が経ち、世界大会へ行けるか決まる全国大会当日になった。自信があり、演技も良かった。結果発表自信満々だったが、結果は二位だった。絶望で、何も考えられなくなってしまった。行けないんだと思っていただけの時、世界大会推薦チームとして名前を呼んでいただけで、ものすごく嬉しくて、一位取ってやると思った。世界大会は一カ月後で練習に追われていたが一カ月もあるとレベルが落ちる。そのまま引き上げる事も出来ず、アメリカへ行った。初めてばかりで楽しさが多く不安がどこかへ行った。舞台袖は、夢の世界すぎて緊張しなかった。予選で一位になれば決勝が有利になる。先生から告げられた順位は一位だった。もう何が起きてるか分からず、時間が経つのは早く、いつのまにか決勝になっていた。すごく楽しみだった。入場してから私達の時間で、とにかく楽しんだ。時間が一瞬で、頂点の風景が見えた。輝いていて、結果が楽しみだった。結果発表は、全て英語で難しかったけど、見事に一位をとれた。ものすごく嬉しくて涙が出た。幸せの頂点だった。夢のような時間で今も忘れられない。

その次の年も、同じチームで大会に出て、去年叶えることのできなかつた全大会優勝を達成できた。他のチームからは、私達のチームが最強と言っていただけだ。二度目の世界大会出場を叶え、優勝し、二連覇することができた。先生をアメリカへ連れていくことができ、やり切った。私は高校生は、学校の部活でチアダンスを続けている。部活として、全米を制覇するという目標がある。私はこの目標を叶え、顧問の先生をアメリカへ連れていく。